

## 蒲郡市でヒダリマキマイマイ（ナンバンマイマイ科）を確認

西 浩孝\*・松岡敬二\*

Record of the land snail *Euhadra quaesita quaesita* (Camaenidae) from Gamagori City,  
Aichi Prefecture, central Japan

Hiroataka Nishi\* and Keiji Matsuoka\*

### はじめに

ヒダリマキマイマイ *Euhadra quaesita quaesita* は、有肺類ナンバンマイマイ科に属し、殻が左巻きの陸産貝類である。日本の固有種で本州の東北地方、関東、中部、北陸地方ならびに山形県飛鳥や東京都伊豆諸島などの周辺離島に分布する（東，1995）。東京都八丈島にも分布するが、移入と考えられている（湊，2007；東京都八丈ビクターセンター，2015）。愛知県に隣接する静岡県、長野県には分布するが、これまで愛知県における信頼できる記録は知られていない（木村昭一氏、私信）。環境省自然環境局生物多様性センター（2002）のヒダリマキマイマイの分布図には、愛知県と岐阜県との県境付近（2次メッシュコード 523763）にプロットが存在する。このプロットが愛知県のものであるかどうかを確認するため、生物多様性センターに依頼して元データである第3・4・5回自然環境保全基礎調査動植物分布調査（陸産及び淡水産貝類）の当該データを入手したところ、愛知県のデータであった。環境省自然環境局生物多様性センター（2002）では、滋賀県にもヒダリマキマイマイのプロットが存在するが、実際には滋賀県にはヒダリマキマイマイは分布しておらずミヤマヒダリマキマイマイ *Euhadra scaevola* の誤同定と考えられる。同様に、愛知県のプロットについてもミヤマヒダリマキマイマイの分布域のため、誤同定

の可能性が高い。

このたび、愛知県蒲郡市で採集されたヒダリマキマイマイが豊橋市自然史博物館に寄贈された。ヒダリマキマイマイの本来の分布域から離れていることから、愛知県への移入例として報告する。

### 標本および確認状況

ヒダリマキマイマイ *Euhadra quaesita quaesita*

標本：1 個体（第 1 図；豊橋市自然史博物館貝類資料 TMNH-MO-28241）、成貝、愛知県蒲郡市竹谷町、2017 年 11 月、小林伸明氏採集。

蒲郡市在住の小林伸明氏から寄贈された。小林氏によると、2017 年の夏までは自宅の庭にマイマイ類が少なくとも 3 個体いることを確認しており、その中に左巻きと思われるものがいたため珍しいと思い、著者の一人松岡に連絡をした。松岡は、同定するには実物又は写真を見る必要がある旨を伝えたものの、生貝の再発見に至らなかった。その後、2017 年 11 月、庭の地面に死殻が落ちているのが発見され、豊橋市自然史博物館に寄贈された。死殻であり軟体部は完全に失われているものの、殻皮が残った新鮮な殻であった。

蒲郡市域周辺に分布するマイマイ属 *Euhadra* の陸産貝類としては右巻きのイセノナミマイマイ *Euhadra eoa communisiformis* がある。右巻きの種であっても突

\* 豊橋市自然史博物館。Toyohashi Museum of Natural History. 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

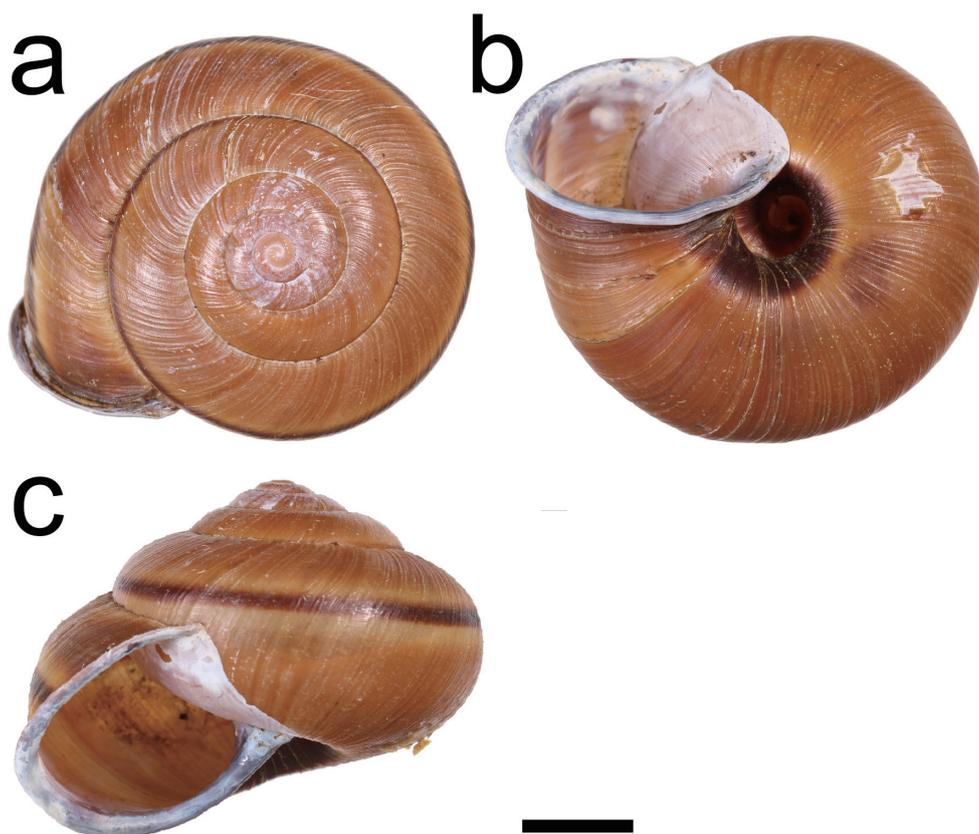
Corresponding author: Hiroataka Nishi. E-mail: nishi.hiroataka@gmail.com

原稿受付 2018 年 12 月 14 日。Manuscript received Dec. 14, 2018.

原稿受理 2018 年 12 月 27 日。Manuscript accepted Dec. 27, 2018.

キーワード：陸産貝類、国内外来種、国内移入種、愛知県。

Key words : land snail, alien species, Aichi Prefecture.



第1図. 蒲郡市産ヒダリマキマイマイ.

a: 殻の上面, b: 殻の底面, c: 殻の側面. TMNH-MO-28241. スケールバーは 10 mm.

然変異等によって逆旋個体が生じる場合があるが、螺管が急に太くなり体層が大きいことや螺塔が高い特徴(東, 1995)などからイセノナミマイマイの逆旋個体ではなく、ヒダリマキマイマイと同定される。

庭にヒダリマキマイマイの殻が持ち込まれたとは考えづらく、それまで庭で生息していたマイマイ類のうちの1個体である可能性が高い。また、ヒダリマキマイマイの他の生息地から離れていることから自然分布ではなく、他地域から移入されたものであると考えられる。小林氏によると、その後、ヒダリマキマイマイが定着しているのかどうか周辺の調査を行ったが、発見できなかったとのことである。このことから、周辺で繁殖はしておらず、偶発的に少数個体が移入したものが発見されたと考えられる。

小林氏からは、自宅庭で採集されたイセノナミマイマイ、オナジマイマイ *Bradybaena similaris*、ニッポンマイマイ *Satsuma japonica* の殻も併せて寄贈された。

## 謝 辞

陸産貝類を寄贈いただいた小林伸明氏、ヒダリマキマイマイの分布についてご教示いただいた三重大大学の木村昭一氏、ヒダリマキマイマイの分布データを提供いただいた生物多様性センターに感謝申し上げます。

## 引用文献

- 東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑(増補改訂版). 保育社, 大阪, xvi + 343 p.+ 80 pls.
- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2002. 生物多様性調査動物分布調査報告書: 陸産及び淡水産貝類 下巻(2分冊の2). 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田, 655-1342.
- 湊 宏, 2007. 八丈島のキセルガイ科貝類7種と他の陸産貝類数種の生息状況. ちりばたん, **37** (4): 186-196.
- 東京都八丈ビジターセンター, 2015. 八丈島のカタツムリ. こっこめ通信, (170): 2.